

宇宙開発戦略本部長である菅総理大臣から挨拶が行われた。大島内閣府副大臣より、資料1「当面の宇宙政策の推進について(案)」及び資料2「準天頂衛星に関するプロジェクトチームの設置について(案)」について説明が行われた。関係閣僚からの主な発言は以下のとおり。

蓮舫内閣府特命担当大臣より、宇宙分野については、これまで宇宙ステーション補給機などについて事業仕分けの中で取りあげてきており、また、本日の議題の準天頂衛星については、各省独自の仕分けの中で取り上げられ、効率的な運営を求める意見があったと承知しており、かかる意見を今後の宇宙政策に反映して欲しい¹との発言があった。

¹ 「事業仕分け特命大臣」としては当然の発言だろうが、今迄とは異質のご意見である。「係る意見」とのお言葉の前には「効率的な運用を求める意見」と云うご発言以外は見当たらないので、「無駄を切り詰めなさい」と云うご意見だろう。又言及した固有名詞は「宇宙ステーション補給機」と「準天頂衛星」の二件であるが、単なる例であるとはしても、此の二件は無駄を切り詰める対象と考えていらっしゃる感じがする。小職も結果としては近い意見を持っている。HTVは有人化を急いではならないと云う事、準天頂は4基体制を急いではならないと云う事を思っている。準天頂は4基体制の前にやる事として、今の準天頂の様に南北に楕円の長軸を取るのではない、東西に長軸を取ったもの、つまり、8の字型ではなくおむすび型の軌道を試す方が大切だと思う。此れに依って軌道投入密度を上げられると考えている。其の上で、静止軌道と同じ様なスロットの登録の国際調整の主役になって頂きたい。

川端文部科学大臣より、本日の決定は、宇宙分野の当面の様々な課題に対する政府全体としての方針を概算要求に先立って取りまとめるものであり、極めて意義深い²との発言があった。また、文部科学省として、今般の方針に沿って、はやぶさ後継機や小型固体ロケットなど国民からの期待や利用ニーズの高い開発プロジェクトを推進していく³との発言があった。さらに、今後、宇宙政策を国家戦略として推進していくことが大切であり、宇宙開発戦略本部が宇宙基本計画の見直しなどの議論を行うべき⁴との発言があった。

藤村外務副大臣より、関係府省と協力して宇宙外交を積極的に推進してきており⁵、特に本年6月、国連宇宙空間平和利用委

² 「概算要求の前」「政府方針のとりまとめ」「意義深い」と云う言葉が意味するものは、財務省が行う予算配分調整に「かなり大きな圧力を掛ける事が出来た。」と云う事以外に何も無かろう。其の代りにどんな分野に予算削減圧力が掛るのか、不安である。

³ 此処に言及した固有名詞は、蓮舫大臣の発言に影響されたと考えられる。「はやぶさ後継機」と「小型固体ロケット」は削減対象にはさせないと云うご意見だと皆さんが受け止めるだろう。

⁴ 二つの意味が考えられる。「政権が変わったのだから基本計画から見直そう。」と云う意味と、「専門調査会で議論するばかりでなく、此の本部会合でも議論しよう。」と云う意味が有りそうである。どちらだろうか、又は、其れ以外の意味でのご発言だろうか。

⁵ 「積極的に推進して来た」と云う「宇宙外交」の細目が確認したいのだが、とても実現しないだろう。国連の常任理事国になりたいのに中々なれない日本が、常任理事国で参加出来ないでいるISSに参加している事を、重要な外交としてお考えなのだろうか。

員会の次期議長に、我が国の堀川宇宙航空研究開発機構(JAXA)技術参与が事実上確定したことは大きな成果であったとの発言があった。また、同委員会において、今後ともスペースデブリ低減等の国際ルール策定に積極的に参加していく⁶との発言があった。さらに、国際宇宙ステーション計画の延長や宇宙システムのパッケージ展開に関わる議論にも積極的に参加していくとの発言があった。

自見内閣府特命担当大臣より、宇宙開発への投資に意味があるのかと問う人も多いが、例えば人工透析などはNASAの半透膜の技術が関わっており、国民の実際の利益につながるものであるとの発言があった⁷。また、宇宙分野の研究開発は裾野の広い分野であり、しっかりと研究開発を進めてほしい⁸との発言があった。

⁶ 前回の本部会合に突然「スペースデブリの低減」の発言があつて奇異に感じていた。JAXAの堀川参与の国連 COPUOS 議長就任が影響している事が分かったが、取って付けた様な感じがする。

⁷ 此れも取って付けた様な説明である。「宇宙活動に投資する意味を問われている」のに対し、直接狙った目標でない処の成果を挙げて弁護するのは如何なものか。若し、「人工透析を目標として半透膜の開発を行なったら、どの位の費用が掛ったのか？」と質問されたら、途端に窮してしまわないだろうか。

⁸ 確かに宇宙活動を支える技術は広範囲に互っているし、其処で求める技術要求は、地上で其れまであった要求とは異なる厳しいものである時が多い。だからと云って一般生活に其の技術が必要になる事とは何の関係も無い。

仙谷官房長官より、原点に立ち返り、宇宙開発戦略本部や宇宙開発担当大臣がしっかりとリーダーシップを発揮し、省庁縦割りの弊害への対応をしていくべき⁹であり、官邸としてもしっかりサポートしていくとの発言があった。また、本日の決定は、そのための大きな一歩であり、引き続き各省連携やプライオリティ付けについて進めていくべきとの発言があった。さらに、「はやぶさ」のように、宇宙政策は国民に夢と希望と勇気を与えるもの¹⁰であり、閣僚の皆様におかれては、本部員としての意識を持ってがんばってほしいとの発言があった。

最後に、「当面の宇宙政策の推進について(案)」及び「準天頂衛星に関するプロジェクトチームの設置について(案)」を決定した。その際、前原宇宙開発担当大臣より、今回の決定を受け、今後、年末に向け、平成23年度予算政府原案への反映、重点施策に係る所要の宇宙予算の確保などに尽くしたいところ、節目での本部の開催を含め、各閣僚に御協力をお願いするとの発言があった。

以上

⁹ 情緒的な論理展開だと感じる。本当に縦割り組織の弊害が顕れているのだろうか。各利用省庁が宇宙活動によって得られる成果には興味を持つものの、其れを自ら行うには多額の資金投入が必要なので、其れを担う事に躊躇しているだけなのではないか。又、産業界は予算要求の一元化に依って宇宙関連予算が増大するものと期待しているから、賛意を示しているのではないだろうか。一元化したら予算が増額されると云う因果関係はないと思う。

¹⁰ 「夢と希望と勇気」だけで高額な投資を説明し切れるのか。